

# あたらき大地

1987年 3月号 NO.19

## ログハウス喫茶施設“やすら木”の建築が着工される

組合会館に隣接して建設されるログハウス喫茶施設が漸く1月19日に着工され、今年3月末完成を目途に、いま工事が急ピッチで進められている。

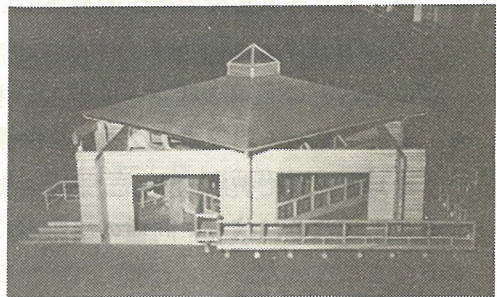
このログハウス喫茶施設は、昨年6月に改正された丸太組構法の新しい技術基準に基いて建築されるもので、其の種の施設としては全国初めての大規模、且つユニークな建物となり、それだけに業界やマスコミからも多大な注目を浴びている。

(去る2月13日にはNHKが取材。)

完成後は団地内の組合員、従業員の福利厚生のための憩いの場、“やすら木”としてお目見えし、喫茶、軽食のサービスが提供されるが、関係者の間では一刻も早いオープンが待ち望まれており、早くも完成後の盛況が見込まれている。

また、このログハウスの建物の周囲は、大阪府の特別緑化事業に指定されたため、四季折々の花木が植樹され、自然味にあふれる庭園として整えられる。

一方この建設工事と併行して、組合創立25周年記念のために、組合会館の改装工事も行われるが、木材団地の組合会館にふさわしい施設として模様替えされ、上記ログハウスの竣工と同時期に披露される予定である。



「やすら木」完成予想図

### < 理事会の議事録から >

#### ★ ログハウス喫茶施設の建築について

組合会館に隣接して建設されるログハウス喫茶施設の建築業者には入札の結果、大和団地(株)に決まり、また工事金額は3,700万円と決定した。なおこのうち大阪府林業関係補助事業(間伐材利用モデル施設設置事業)として509万円の補助金が交付される。



### ★ ログハウス喫茶施設の周辺地緑化について

ログハウス喫茶施設の周辺地に植樹を行うため、大阪府緑化基金の緑化モデル事業の対象として補助金の交付(事業費764万円に対して382万円の補助金)を受けることが決った。なお当緑化の工事業者には入札の結果、地元の北中庭園が指名された。

### ★ 組合創立25周年記念式典について

今年は組合創立25周年に当り、既報のとおりその記念事業として、①海外研修旅行、②記念講演会、③組合会館の改装、を行うことになっていたが、ログハウス喫茶施設の竣工などとのからみもあり、また記念講演会と抱き合わせで今年6月3日に記念式典を開催することになった。

### ★ 組合役員改選に伴う選考委員の委嘱について

今年5月に組合役員の改選期を迎えるが、役員選出のための選考委員として7名のメンバー(副理事長2名、理事2名、監事1名、組合員代表者2名)で選考を進めていくことになった。

### ★ ウッドリーム施設の多目的利用について

ウッドリームの施設をより有効に活用していくため、従来の研修会のほかに結婚式、音楽会などの利用の範囲を拡げることが認められた。

### ★ ウッドリーム内設置のクイック指標ボード情報の廃止について

今月5月末で契約期限が到来する表記指標ボード情報は、コスト面を考慮して廃止することになり、代りに同種の情報用具を別途に作製し、手作業によるサービスで補充することになった。

## “環境整備すぐやる課だより”



昨年末より、組合員外の団地内一般企業(42社)を対象に、環境整備事業についての協力を要請してきたところ、全面的な賛同を得て、当事業の第二段階をスタートさせることができた。

そして、去る2月13日(金)にはこれらの一般企業も含めた18人の環境整備常任委員会も開催され、これまでの事業実施報告をはじめ、色々な提案事項も話し合われるなど、当事業の本格的な推進体制が整った。

なかでも、団地東南部のクリーン作戦として、PL進入路の清掃をはじめ、街燈の設置等が決まり、最も整備がおくっていたこの地域が、見違えるように改善された。

今後とも団地内の環境整備事業については、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

環境整備すぐやる課

TEL 0723-61-7848(担当 花井)

## 【日頃の心がまえ】

- (1) ヤル気のもととは自発心である。
- (2) トラブルを予定してとりかかれ。
- (3) 『会社の俺は仮の姿』と思ってないか。



## 【組合員企業の紹介シリーズ】『うちの会社』



〔その19〕シバタ建設工業(株) 社長 漆原 洋二

当社は木造住宅が日本の建築の基本であると考えている企業です。団地工場においては当社事業の一翼を担う木造注文住宅の構造部材のプレカット加工、並びに当社開発のS B Tハウスの壁体で連続空気層パネルの生産を主な作業としております。

もともと、在来工法の木造住宅は経験豊かな大工の棟梁によって墨付され、手作業によって加工されていたものであります。しかし、高学歴時代に伴い優秀な職人が不足し、日本古来の伝統を受けつぐ木造住宅は、多大な影響を受けております。

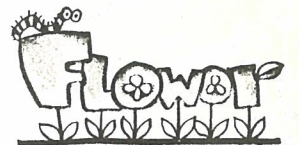
この点を踏まえて、当社では在来工法木造住宅の工業化を目指しました。まず、軸組材の仕口加工を木工機の導入によって、素人工による加工作業を可能にしました。その加工精度、及び品質は、熟練大工職人を驚かすほどのものであります。

次に、従来現場作業と考えられていた間柱軸組を工場作業に移転し、連続空気層パネルとして完成しました。これによって、建物は流通する空気層を外壁に持つため、外気の影響を緩和し、快適な室内環境を保ちます。

今後は、コンピューターの導入により、工場生産過程の無人化をはかり、「営業⇒設計⇒生産」行程の一貫システムを目指します。

今後とも、組合員の皆様のご指導とご鞭撻の程お願い申し上げます。

## “ウッドリーム大阪”だより



### ◎ '87 新春講演会開催

去る1月28日午後6時から、中東問題研究センター所長・宇野正美氏を講師に迎え、「ユダヤが解ると世界が見えてくる」と題して、わが国の円高による貿易収支の大幅黒字GNP対比で世界一の金持国日本の現状とその矛盾を、一握りのユダヤ民族によって支配されている現実について講演された。

聴講者は予定の定員数を大きく上廻って、約150名が集まり、ウッドリーム講習会シリーズ始って以来の大盛況であった。

### ◎ 展示企業木材知識講習会開催

去る2月26日(木)午後1時30分より、ウッドリーム2階展示場出展企業3社による木材知識講習会が開催された。

第1部は、「我が社の歩みと南洋材の展望」について浅野木材(株)代表取締役社長浅野寛氏が緻密な資料をもとに南洋材の概要について、また第2部は、「“住友林業の家”の生産改革」について住友林業ホーム(株)生産管理技術部々長森和彦氏が木造軸組工法に



における生産性、工期問題等を中心に現在の取組状況と将来志向について、そして第3部は、「簡易施工法（ネダレス工法）による直貼り土足用木質床材」について朝日特殊合板㈱取締役開発部長中島力氏が、サイレックス塗装という驚異的な耐摩耗塗装が施された軽くて薄い木質床材の特性とその施工法を現物見本とスライドによって説明された。

聴講者80数名と大盛況の木材知識講習会であった。なお、今回は3月27日（金）午後1時30分より木造3階建火災実験ビデオ（解説-日本住宅・木材技術センター）と㈱中川木材店、大建工業㈱による木材知識講習会が行われる予定です。



◎ ウッドリーム友の会より

○ 家族、法人会員の制度について

昨年4月に発足致しました“ウッドリーム友の会”は、会員も200名を越え、今年度は発足当初目標の500名会員をめざして、従来の個人会員に加えて新たに家族、法人会員の制度を設けより一層の充実を計っております。

○ 木のふれあいツアーの行事について

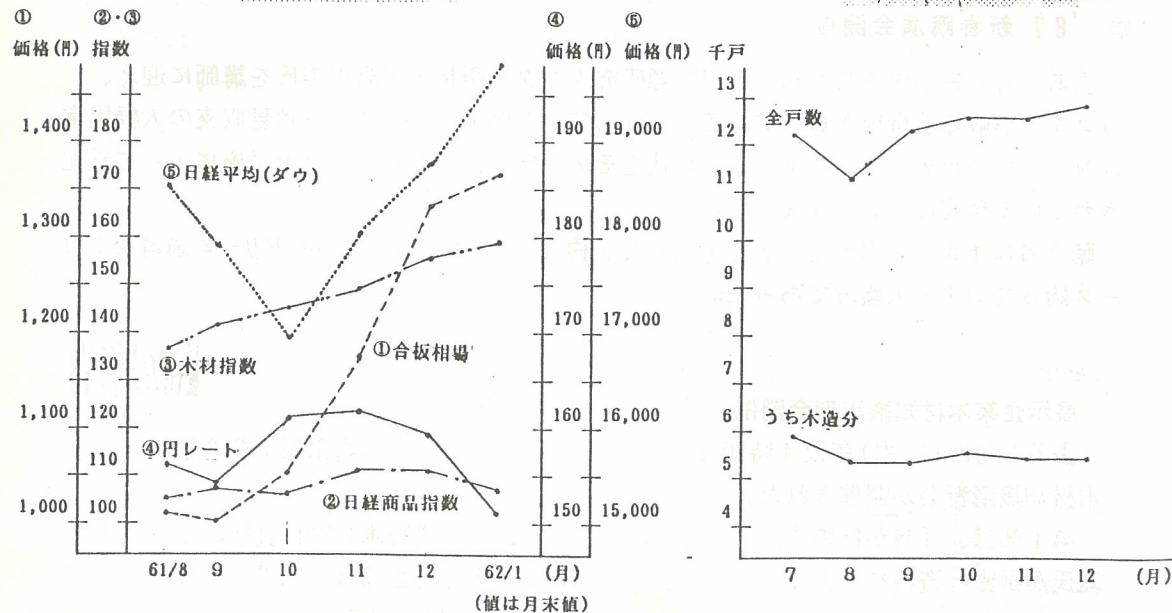
友の会のメイン事業である“木のふれあいツアー”を今年は「木曾ヒノキの里、木のふれあいバスツアー」と題し、来る5月15～16日、16～17日に長野営林局の協力により日本三大美林の一つとして有名な木曾ヒノキを主体とした木曾五木の優れた天然林（赤沢自然休養林）散策を企画しました。

楽しさ満喫、木曾路ふれあいの旅へ是非ふるってご参加下さい。尚、スケジュール等詳細については友の会事務局（0723-61-2030 担当 花井・牧山）までご照会ください。



市況情報

住宅着工戸数



『ちょっと一言』



(協) 大阪ツキ板センター 山下光夫

私は大正4年生れで今年“年男”であるが、母親の話では、一番運の強い男といわれていた。振り返ってみると昭和10年に兵隊検査をうけ、12年の支那事変から大東亜戦争まで3回の赤紙がきた。やっと戦争が終ったと思った時にはもう30才だった。それから大きな時代の変化の中で一生懸命仕事をしてきて、早や今年で42年目をむかえる。

いま当木材団地に大阪ツキ板センターの展示場と即売場をつくる計画を進めている。ツキ板の展示場は全国に例がなく、これが出来上がるとツキ板業界の活性化にもつながり、ひいては当木材団地にとってもその存在性をより一層高めることができるだろう。この施設は、大断面構造用集成材を使った2階建て延1,104坪の建物で、完成後は 当団地内での名所(?)の一つとしてお目見えするであろう。

私はあと4～5年先が業界の大きな転換期だと思っている。高度成長の蔭でどンドン木材のシェアが狭められ、一方鉄筋マンションがいわば高度成長の象徴みたいに乱立したが、こゝに来てその欠陥や問題が表面化し、その対極にあった“木の文化”への見直しが始まっている。

木材への再認識もちょうど30年周期でやってきたように思い、これからは再び木材の時代だと考えている。私の胸は、いま新しい夢の実現に向けて一段とふくらんでいる。木材の復権のためにまだやり残した仕事は沢山あり、隠居なんてまだまだとても早いと思っている。



“郵便局だより”

当「美原木材団地簡易郵便局」の開局当初より、皆様方からお問い合わせの多かった、交通反則金の払込みが、去る1月より当郵便局でも可能となりましたので精々(?)ご利用下さるようお願いいたします。

“木栄会だより”



★ 「てんびんの詩」第二部の映画会を開催

去る2月6日、午後6時より「ウッドリーム大阪」研修室において、参加者33名のもと標記映画会が開催された。

この映画は昨夏に上映され大好評であった第1部の続編として上映されたもので、「近江商人」を採り上げ、「客とは何か」・「売るとはどんな事か」を涙と感動でつづった物語で、鑑賞者は一同食入るように見入っていた。

なお、この映画の第1部と2部を併わせて各社の社内研修等に利用いただければ、大変参考になると思われますので是非おすゝめいたします。

## 【 団地内のうごき 】

### ◎ 美原町木材団地緑の少年団学習会開催

去る12月25日(木)午後1時よりウッドリーム大阪に於いて、木に関する学習会を開催した。

“新しい生きもの「木」”という木をテーマにしたビデオを見た後、中川理事長の説明があり、館の内・外を見学し広く木材・樹木について学習した。特に理事長の集収された木の実を前にした時は、子供たちは熱心に質問していた。

今回は学習活動にリクレーション活動も兼ねた企画として、“小象物語”という映画も上映し、最後にかぶとむしの幼虫を配布して終了した。

今後も定期的に活動を行い、団員の教養を高め少年団のレベルアップを計る予定です。

## 【 事務局だより 】



### “ 組合 25 周年記念 海外研修旅行 ”

今回企画した海外研修旅行は、来る4月25日～5月4日までの日程で、アメリカ北西部の木材市場を視察する事を目的としたもので、タイトルも『米加・木材市場視察団』と名付け、中川理事長を団長として、参加組員数31社、事務局2名、日刊木材新聞社1名、夫人等の同行者も含め総員47名という大規模な団体となった。

一行は、『ウッドリーム大阪』が姉妹センターとして交流しているポートランドの、『ワールド・フォレストリーセンター』への訪問をメインに、製材工場・山林・木材積出し港・DIY店・タコマドーム・木造住宅など、盛りだくさんの見学が予定されているが、10日間の日程の中で豊富な見聞と知識を大いに修得し、実りのある研修旅行となることが期待されている。

### 山本職員、写真コンテストに入賞

大阪府主催の第2回「みなみかわち探訪」フォトコンテストにおいて、組合事務局・山本郁生職員の応募作品「大阪府緑化センターの秋」が特別賞(羽曳野市商工会賞)を受けました。

なおこの作品は、3月11日(水)～3月16日(月)にACTYギャラリー、3月18日(水)4月11日(土)に南河内府民センター1階ロビーにおいて展示されます。

## 【 編 集 後 記 】



去る1月23日にゲストハウスの建築が着工されました。名称も『やすら木』と決まり、完成後は組合員の皆様のやすらぎの場となることでしょう。また同時に組合会館も改修され木材の街にふさわしい会館に衣替えされます。

『あたらしき大地』も生の声をどしどし取り入れ、組合員皆様の情報紙にふさわしく、内容の充実を計りたいと思います。

組合役員からの“ちょっと一言”シリーズも5月号で最後となり、新しい企画・内容を検討しております。ご意見・ご要望等がありましたら、当編集部までお寄せ下さい。

(“あたらしき大地”編集部)